

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

<団体情報>

| | |
|--------|------------------|
| 担当小委員会 | 第 59/61/116 小委員会 |
| 事務局 | 一般社団法人日本電機工業会 |

<規格情報>

| | |
|----------------------|--|
| 規格番号（発行年） | JIS C 9335-2-29（2019）＋追補 1（2023） JIS C 9335-1（2014）対応 |
| 対応国際規格番号：発行年 | IEC 60335-2-29:2016（Ed. 5. 0）＋Amd. 1:2019 |
| 規格タイトル | 家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-29 部：バッテリーチャージャの個別要求事項 |
| 適用範囲に含まれる主な電気用品名 | 直流電源装置 |
| 廃止する基準（発行年）及び有効期間 | J60335-2-29（2019） / 有効期間 3 年間 |
| 雑音の強さ（当てはまらない選択肢を消去） | ・表 2 を適用 |

<審議中に問題となったこと>

審議中に問題になった主な事項は、次のとおり。

- a) **序文** この規格の全てにおいて、引用する通則（JIS C 9335-1）を 2014 年度版とする記載方法については、序文に次の内容を記載することとした。

“この規格の全ての“JIS C 9335-1”を“JIS C 9335-1:2014”に置き換える。”

また、上記対応に伴い、現行規格の序文の細別の後の次の記載は、重複内容となるため削除することとした。

“ただし、JIS C 9335-1 の引用項目又は引用箇所は、この規格の作成時に最新版として発効されていた JIS C 9335-1:2014 を引用している。このため、この規格の発効以降に発効された JIS C 9335-1 を引用する場合は、その引用項目又は引用箇所が異なる場合があることに注意する。”

- b) **表示、及び取扱説明書及び据付説明（箇条 7）** について審議した結果は、次のとおりである。

- － 記号を用いる表示（7.6） 追加する記号の名称及び記号説明の細別の“屋内用”は、**附属書 AA** の表現と整合させた方がよいとの意見があった。審議した結果、対応国際規格では、記号の名称は、“for indoor use only”，細別は“for indoor use”であるが、同意であるため、“屋内使用専用”とすることとした。

- － **取扱説明書（7.12）** 充電中にガスを大気中に放出するバッテリーチャージャに記載する“バッテリーは換気の良い場所に”は、JIS 様式に合わせ、ひらがな表記とし、“バッテリーは換気のよい場所に”，屋外使用の可搬形クラス I バッテリーチャージャの“屋外使用の”は、7.1 の“屋内用”と整合させ、“屋外用の”及びタイプ 2 バッテリーチャージャに記載する“充電中のバッテリーの周囲温度範囲”は、対応国際規格が“charger”であるため、“充電中のバッテリーチャージャの周囲温度範囲”にすることとした。

- c) **入力及び電流（10.102）** バッテリーチャージャの試験（出力電流）の許容事項は、バッテリーの性質によっては、規定の試験回路を接続しても測定できない場合があることに對するものと考えられ

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

るため、意識し、“各バッテリーの化学的性質によって、図 101 の回路では試験できない場合、図 101 の代わりに、最も高い電圧のバッテリー及び最も大きい容量のバッテリーを用いてもよい。”にすることとした。

- d) **附属書 BB（絶縁変圧器）** 引用規格の JIS C 61558-1 及び JIS C 60664-4 を年度固定することについて、対応国際規格の Amendment 1 では年度の記載はないが、引用規格の JIS の最新版を確認し、JIS C 61558-1 の引用箇所は、最新版と差異があるため、年度固定を行い、JIS C 60664-4 は、最新版と差異がないため、年度固定を行わないこととした。

<主な国際規格との差異の概要とその理由>

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

| 項目番号 | 概 要 | 理 由 |
|------|-----|-----|
| | なし | |

<主な改正点>

主な改正点は、次のとおり。

- a) **タイプ 0 バッテリチャージャの定義（3.5.101A）** タイプ 0 バッテリチャージャの定義を追加した。
- b) **タイプ 1 バッテリチャージャの定義（3.5.102）** タイプ 1 バッテリチャージャの定義を追加した。
- c) **タイプ 2 バッテリチャージャの定義（3.5.103）** タイプ 2 バッテリチャージャの定義を追加した。
- d) **絶縁変圧器の定義（3.6.101）** バッテリチャージャ回路に給電する絶縁変圧器の定義を追加した。
- e) **クラス 0 変圧器の定義（3.6.101A）** バッテリチャージャ回路に給電するクラス 0 変圧器の定義を追加した。
- f) **表示の要求（7.1）** 一部のバッテリチャージャに対して“充電する前に、取扱説明書を読む。”と“雨にさらさない”旨の表示要求を追加した。
- g) **記号リスト（7.6）** “屋内使用専用”と“雨にさらさない”の記号を追加した。
- h) **取扱説明書への記載要求（7.12）** タイプ 0 バッテリチャージャ、タイプ 1 バッテリチャージャ及びタイプ 2 バッテリチャージャの取扱説明書への要求を追加した。
- i) **充電部への接近に対する保護の要求（8.1.4）** タイプ 0 バッテリチャージャ及びタイプ 2 バッテリチャージャの充電部への接近に対する保護の要求を追加した。
- j) **入力及び電流（10.101）** タイプ 0 バッテリチャージャ、タイプ 1 バッテリチャージャ及びタイプ 2 バッテリチャージャの電圧の制限を規定した。
- k) **入力及び電流（10.102）** タイプ 0 バッテリチャージャ、タイプ 1 バッテリチャージャは旧規格と同様に対応国際規格との技術的差異事項だが、今回新たに定義したタイプ 2 バッテリチャージャの定格直流出力電流の許容差は、対応国際規格で考慮されたため、技術的差異事項ではな

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

くなった。

- l) **変圧器及びその関連回路の過負荷保護**（箇条 17） クラス 0 変圧器の過負荷保護の要求を追加した。
- m) **構造**（22.26） タイプ 0 バッテリチャージャの構造要求を追加した。
- n) **絶縁変圧器**（附属書 BB） 絶縁変圧器に関する要求を追加した。

技術基準との整合確認書

<技術基準省令への整合性>

規格番号：JIS C 9335-2-29:2023 規格名：家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－第 2-29 部：バッテリーチャージャの個別要求事項

| 技術基準 | | | 該当 | 規格 | | 補足 |
|--------------|------|---|-------------|--|--|----|
| 条 | タイトル | 条文 | | 項目番号 | 規定タイトル・概要 | |
| 第二条 第 1 項 | 安全原則 | 電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。 | ■該当 □非該当 | 箇条 4 | 箇条 4 一般要求事項（JIS C 9335-1（以下、第 1 部）の規定による。） 機器は、通常使用時に起こりやすい不注意があっても、人体及び／又は周囲に危害をもたらさないように安全に機能する構造でなければならない。 | |
| 第二条 第 2 項 | 安全原則 | 電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。 | ■該当 □非該当 | 箇条 10 10.101 10.102 箇条 22 | 第 1 部の第二条第 2 項に該当する規定によるほか、次による。 箇条 10 入力及び電流 10.101 タイプ 0 バッテリーチャージャの直流出力電圧は 42.4 V を超えてはならない。タイプ 1 バッテリーチャージャの直流出力電圧は 120 V を超えてはならない。タイプ 2 バッテリーチャージャの直流出力電圧は 250 V を超えてはならない。 10.102 タイプ 0 バッテリーチャージャ及びタイプ 1 バッテリーチャージャの場合、出力電流の算術平均値は、定格直流出力電流の+10%を超えてはならない。タイプ 2 バッテリーチャージャの場合、出力電流の算術平均値は、定格直流出力電流の+10%を超えてはならない。 箇条 22 構造 | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--------|--|--|
| | | | | 22.102 | 22.102 トレーラハウス及び類似の車両の中に据え付けるバッテリーチャージャは、支持台に確実に固定できる構造でなければならない。 | |
| | | | | 附属書 AA | 附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ このバッテリーチャージャは、30 V 以下の安全特別低電圧の直流出力を持ち、かつ、定格出力は 50 VA 以下でなければならない。 | |
| | | | | 箇条 10 | 箇条 10 入力及び電流 | |
| | | | | 10.101 | 10.101 出力電圧は、42.4 V ピークを超えてはならない。 | |
| | | | | 箇条 22 | 箇条 22 構造 | |
| | | | | 22.201 | 22.201 バッテリーチャージャは、単一の定格電圧又は定格電圧範囲をもたなければならない。 出力電圧を手動で調節する手段を組み込んではいない。 | |
| | | | | 22.202 | 22.202 バッテリーチャージャは、バッテリーの充電状態にかかわらず、逆充電を防止する構造でなければならない。 | |
| | | | | 箇条 25 | 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード | |
| | | | | 25.1 | 25.1 バッテリーチャージャは、差込プラグ付きの電源コード又はコンセントに直接差し込むピンを備えていなければならない。 | |
| | | | | 25.5 | 25.5 電源コードは、Y 形取付け又は Z 形取付けによってバッテリーチャージャに取り付けなければならない。 | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|------------|-------------|--|-------------|-----------------|---|--|
| 第三条 第1項 | 安全機能を有する設計等 | 電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。 | ■該当 □非該当 | 箇条 19 | 箇条 19 異常運転（第1部の規定による。） 機器は、異常運転又は不注意運転によって、火災の危険、及び安全性又は感電に対する保護に影響を及ぼす機械的損傷を、できるだけ未然に防止できる構造でなければならない。 | |
| 第三条 第2項 | 安全機能を有する設計等 | 電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。 | ■該当 □非該当 | 箇条 7 7.1 | 第1部の第三条第2項に該当する規定によるほか、次による。 箇条 7 表示、及び取扱説明及び据付説明 7.1 バッテリチャージャの出力が 20VA 以上の場合、ISO 7000 の記号 0790 (2004-01) の記号又は“充電する前に、取扱説明書を読む。”の表示をしなければならない。 バッテリチャージャの出力が 20VA 以上の場合、“屋内使用専用”若しくは IEC 60417 の記号 5957 (2004-12)、又は“雨にさらさない”若しくは IEC 60417 の記号 6062 (2011-05) の表示をしなければならない。ただし、バッテリチャージャが IPX4 以上の有害な水の浸入に対する保護を備えている場合は除く。 出力が 20VA 以上であり、かつ、鉛蓄電池用バッテリチャージャの場合は、次の事項を表示しなければならない。 ーバッテリの接続を行う前又は接続を切る前には、電源を遮断しなければならない ー警告ー爆発性ガスあり。火災及び火花の禁止。充電中、十分な換気を行う | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|--|--|--|--|------|---|--|
| | | | | 7.12 | <p>エンジンの補助起動電流を給電することができるエンジン始動スイッチを組み込むバッテリーチャージャには、次の事項を表示しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ー最大オン時間 ー最小オフ時間、又はオン時間とオフ時間との間の最大比率 <p>7.12 取扱説明書には、次の事項を記載しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ー通常の充電中にガスを大気中に放出するバッテリーチャージャの場合、“充電中、バッテリーは換気のよい場所に配置する必要がある。”旨。 ー屋外用の可搬形クラスⅠバッテリーチャージャの場合、“接地極付コンセントにだけプラグを挿入することができる。”旨。 ー一部の機能を自動で行うバッテリーチャージャの場合、自動機能についての説明、及び制限事項の記載が必要。 <p>タイプ0 バッテリーチャージャ及びタイプ1 バッテリーチャージャの場合、取扱説明書には、次も記載しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ー充電可能なバッテリーの種類、バッテリーの数量及びバッテリーの公称容量 ー非充電式バッテリーの充電に対する警告 <p>タイプ2 バッテリーチャージャの場合、取扱説明書には、次も記載しなければならない。</p> | |
|--|--|--|--|------|---|--|

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-----|--------------|---|--|--|--|--|
| | | | | <p>7.12.1</p> <p>7.12.1 トレーラハウス及び類似の車両の中に据え付けるためのバッテリーチャージャの取扱説明書には、国の配線規程に従って、主電源に接続していることを記載しなければならない。</p> <p>附属書 AA</p> <p>7.1 附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ</p> <p>7.12 バッテリーチャージャには、外来固形物の侵入に対する保護等級に関して、IP コードを表示しなければならない。</p> <p>7.12 取扱説明書には、次の趣旨を記載しなければならない。</p> <p>―注意：8 歳以上の子供だけに、バッテリーチャージャの使用を認める</p> <p>―破裂の危険があるため、非充電式の電池の再充電しないように子供に指導する、等</p> | <p>―カタログ番号, シリーズ ID, それと同等のものなど, 充電するバッテリーの仕様</p> <p>―充電中のバッテリーチャージャの周囲温度範囲</p> <p>自動車用バッテリーチャージャの取扱説明書には、バッテリーを安全に充電できる方法を記載しなければならない。</p> <p>IEC 60417 の記号 5957 (2004-12) 又は IEC 60417 の記号 6062 (2011-05) を用いる場合、その意味を記載しなければならない。</p> | |
| 第四条 | 供用期間中における安全機 | 電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 22 22.16 | 箇条 22 構造 22.16 自動式巻取り機構は、耐久試験の結果、異常を | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-----|--------------------|--|------------------------|---|--|--|
| | 能の維持 | | | <p>箇条 23</p> <p>23.3</p> <p>箇条 25</p> <p>25.14</p> <p>箇条 31</p> | <p>生じてはならない。(第1部の規定による。)</p> <p>箇条 23 内部配線</p> <p>23.3 内部配線は、折曲げ試験の結果、異常を生じてはならない。(第1部の規定による。)</p> <p>箇条 25 電源接続及び外部可とうコード</p> <p>25.14 シースなしの平形電源コードは、折曲げ試験の結果、異常を生じてはならない。(第1部の規定による。)</p> <p>箇条 31 耐腐食性(第1部の規定による。)</p> <p>腐食によって機器がこの規格に適合しなくなるおそれがある鉄製の部分は、防腐食対策を十分に施さなければならない。</p> | |
| 第五条 | 使用者及び使用場所を考慮した安全設計 | 電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。 | <p>■該当</p> <p>□非該当</p> | <p>箇条 29</p> <p>29.2</p> <p>附属書 AA</p> <p>箇条 6</p> <p>6.1</p> <p>6.2</p> <p>6.201</p> | <p>第1部の第五条に該当する規定によるほか、次による。</p> <p>箇条 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁</p> <p>29.2 屋外用を意図したバッテリーチャージャは、汚損度3に適合しなければならない。</p> <p>附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ</p> <p>箇条 6 分類</p> <p>6.1 屋外使用を意図したバッテリーチャージャは、感電に対する保護に関し、クラスⅢでなければならない。その他のバッテリーチャージャは、クラスⅡ又はクラスⅢでなければならない。</p> <p>6.2 屋外用のバッテリーチャージャは、水の有害な浸入に対して、IPX7以上でなければならない。</p> <p>6.201 バッテリーチャージャの外郭は、外来固形物の侵</p> | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|------------|-------------------|--|--|--|--|--|
| | | | | | 入に対する保護に関して IP3X 以上でなければならない。 | |
| 第六条 | 耐熱性等を有する部品及び材料の使用 | 電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 25 25.7 | 第1部の第六条に該当する規定によるほか、次による。 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード 25.7 天然ゴムの電源コードは、屋内用を意図したバッテリーチャージャを除き、車両用バッテリーを充電するためのバッテリーチャージャに用いてはならない。 低温での使用を意図するバッテリーチャージャの電源コードは、オーディナリーポリクロロプレキシース付きコードと同等以上の特性をもっていなければならない。 | |
| 第七条 第1項 | 感電に対する保護 | 電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 8 8.1 附属書 AA 箇条 8 8.1.1 | 第1部の第七条第1号に該当する規定によるほか、次による。 箇条 8 充電部への接近に対する保護 8.1 42.4V を超える出力電圧をもつバッテリーチャージャは、バッテリーの取付け又は取外しの間、バッテリー又はバッテリーチャージャの充電部との接触について、確実に保護しなければならない。 附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ 箇条 8 充電部への接近に対する保護 8.1.1 外郭の部品を取り外すために工具を用いた後であっても、充電部又は基礎絶縁だけで充電部から分離した金属部分への接近が可能であってはならない。 | |
| 第七条 第2項 | 感電に対する保護 | 二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 13 | 箇条 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧（第1部の規定による。） | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-----|---------|---|------------------------|--|--|--|
| | | | | <p>箇条 16</p> <p>箇条 22</p> <p>22.5</p> <p>箇条 27</p> | <p>箇条 16 漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の規定による。）</p> <p>箇条 22 構造</p> <p>22.5 通常使用時に差込プラグのピンに触った場合に、充電されたコンデンサからの感電の危険がない構造でなければならない。（第 1 部の規定による。）</p> <p>箇条 27 接地接続の手段（第 1 部の規定による。） 絶縁不良が生じた場合に充電部になるおそれがあるクラス 0Ⅰ機器及びクラス I 機器の可触金属部は、接地極に確実に接続しなければならない。</p> | |
| 第八条 | 絶縁性能の保持 | 電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。 | <p>■該当</p> <p>□非該当</p> | <p>箇条 11</p> <p>箇条 13</p> <p>箇条 14</p> <p>箇条 16</p> <p>箇条 17</p> | <p>箇条 11 温度上昇（第 1 部の規定による。） モータ巻線、配線及び巻線以外の絶縁物の上限値は、規定する値を超えてはならない。</p> <p>箇条 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の規定による。）</p> <p>箇条 14 過渡過電圧（第 1 部の規定による。） 機器は、発生する可能性がある過渡過電圧に耐えなければならない。</p> <p>箇条 16 漏えい電流及び耐電圧（第 1 部の規定による。）</p> <p>箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護（第 1 部の規定による。） 変圧器から電源の供給を受ける回路をもつ機器は、通常使用時に生じる短絡においても、変圧器の巻線は規定する値を超えてはならない。</p> | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-----|-------------|--|--|---|---|--|
| | | | | 箇条 19 箇条 29 附属書 BB 箇条 17 | 箇条 19 異常運転（第 1 部の規定による。） 異常運転試験において、絶縁物の温度上昇は規定する値を超えてはならない。 箇条 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁（第 1 部の規定による。） 附属書 BB 絶縁変圧器 箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護 フェイルセーフ変圧器は、JIS C 61558-1:2008 の 15.5 に適合しなければならない。 | |
| 第九条 | 火災の危険源からの保護 | 電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 11 箇条 19 箇条 30 30.2 | 箇条 11 温度上昇（第 1 部の規定による。） 木材一般、油に接触する部分の上限値は、規定する値を超えてはならない。 箇条 19 異常運転（第 1 部の規定による。） 異常運転試験において、炎、危険な量の可燃性のガスが機器から漏れてはならない。 箇条 30 耐熱性及び耐火性 30.2 非金属製の部分は、十分な耐着火性及び耐延焼性をもっていなければならない。（第 1 部の規定による。） | |
| 第十条 | 火傷の防止 | 電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 附属書 AA 箇条 11 11.8 | 第 1 部の第十条に該当する規定によるほか、次による。 附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ 箇条 11 温度上昇 11.8 規定の検査プローブが接触する部品の温度上昇は、規定値を超えてはならない。 | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-------------|------------------------|---|-------------------------------------|--|---|--|
| | | | | 箇条 17 箇条 19 19.13 | 箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護 規定の検査プローブが接触する部品の温度上昇は、規定値を超えてはならない。 箇条 19 異常運転 19.13 規定の検査プローブが接触する部分の温度上昇は、規定値を超えてはならない。 | |
| 第十一条 第1項 | 機械的危険源 による危害の 防止 | 電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。 | ■該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 19 19.13 | 第1部の第十一条第1号に該当する規定によるほか、次による。 箇条 19 異常運転 19.13 異常試験中、バッテリーは、破裂してはならない。 | |
| 第十一条 第2項 | 機械的危険源 による危害の 防止 | 電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。 | ■該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条 21 21.101 21.102 附属書 AA 箇条 21 21.201 | 第1部の第十一条第2項に該当する規定によるほか、次による。 箇条 21 機械的強度 21.101 質量 5 kg 以下の埋込形以外のバッテリーチャージャは、高さ 1 m からコンクリート床面に落としたとき、損傷が生じてはならない。 21.102 トレーラハウス又は類似の車両の中に据え付けるバッテリーチャージャは、それらに加わるおそれがある振動に耐えなければならない。 附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ 箇条 21 機械的強度 21.201 バッテリーチャージャは、規定の振り子ハンマ試験及び自然落下試験後、損傷が生じてはならない。 | |
| 第十二条 | 化学的危険源 | 電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出 | ■該当 | 箇条 19 | 箇条 19 異常運転（第1部の規定による。） | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|------|------------------------|---|--|--|---|--|
| | による危害又は損傷の防止 | し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。 | <input type="checkbox"/> 非該当 | <div>箇条22</div> <div>22.22</div> <div>22.23</div> <div>22.41</div> <div>箇条32</div> | <p>異常運転試験において、危険な量の有毒性のガスが機器から漏れてはならない。</p> <p>箇条22 構造</p> <p>22.22 機器は、アスベストを含んではならない。(第1部の規定による。)</p> <p>22.23 機器には、PCBを含んだ油を用いてはならない。(第1部の規定による。)</p> <p>22.41 機器は、ランプを除き、水銀を含む部品を組み込んではならない。(第1部の規定による。)</p> <p>箇条32 放射線、毒性その他これに類する危険性(第1部の規定による。)</p> | |
| 第十三条 | 電気用品から発せられる電磁波による危害の防止 | 電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条32 | 箇条32 放射線、毒性その他これに類する危険性(第1部の規定による。) | |
| 第十四条 | 使用方法を考慮した安全設計 | 電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | <div>箇条19</div> <div>19.7</div> <div>19.9</div> <div>箇条22</div> | <p>箇条19 異常運転</p> <p>19.7 人がついていない状態で運転する機器は、拘束試験において、巻線の温度は規定する値を超えてはならない。(第1部の規定による。)</p> <p>19.9 遠隔制御若しくは自動制御によって運転するモータをもつ機器、又は連続運転を行う可能性がある機器には、過負荷運転試験において、巻線の温度が規定の値を超えてはならない。(第1部の規定による。)</p> <p>箇条22 構造</p> | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-------------|----------------------------|---|-------------|--------------------------|---|--|
| | | | | 22.40 | 22.40 遠隔操作用の機器には、機器の動作を停止させるためのスイッチを取り付けなければならない。 (第1部の規定による。) | |
| | | | | 22.49 | 22.49 遠隔操作の場合、運転持続時間を設定しない限り、機器が始動できないようにしなければならない。(第1部の規定による。) | |
| | | | | 22.50 | 22.50 機器内に組み込んだ制御装置がある場合、それが遠隔操作によって操作される制御装置よりも優先されなければならない。(第1部の規定による。) | |
| | | | | 22.51 | 22.51 機器上には、機器が遠隔操作に調節されていることを示す視覚的表示がなければならない。(第1部の規定による。) | |
| | | | | 箇条30 | 箇条30 耐熱性及び耐湿性 | |
| | | | | 30.2.3 | 30.2.3 遠隔操作の機器及び人の注意が行き届かない状態で動作する機器については、非金属材料に燃焼試験を行わなければならない。(第1部の規定による。) | |
| 第十五条 第1項 | 始動、再始動 及び停止による 危害の防止 | 電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。 | ■該当 □非該当 | 箇条 19 | 箇条19 異常運転 (第1部の規定による。) 異常運転試験において、機器は、危険な誤動作を起こしてはならない。 | |
| 第十五条 第2項 | 始動、再始動 及び停止による 危害の防止 | 電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。 | ■該当 □非該当 | 箇条19 箇条20 20.2 | 箇条19 異常運転 (第1部の規定による。) 異常運転試験において、機器は、危険な誤動作を起こしてはならない。 箇条20 安定性及び機械的危険 20.2 自己復帰形温度過昇防止装置及び過負荷保護装 | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-------------|--------------------|---|--|--|---|--|
| | | | | 箇条22 22.10 | 置が何かの拍子に閉状態になった場合に、それが危険を引き起こす引き金となってはならない。(第1部の規定による。) 箇条22 構造 22.10 機器に内蔵する自動開閉装置の動作によって、電圧維持下の非自己復帰形温度過昇防止装置が復帰してはならない。(第1部の規定による。) | |
| 第十五条 第3項 | 始動、再始動及び停止による危害の防止 | 電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。 | <input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 | — | — | 一般的に、不意な停止によって人体に危害を及ぼし又は物件に損傷を与えるおそれがないため、非該当が妥当と考える。 |
| 第十六条 | 保護協調及び組合せ | 電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条10 箇条19 箇条25 | 箇条10 入力及び電流（第1部の規定による。） 機器に定格入力（定格電流）が表示されている場合、通常動作温度における入力（電流）は、許容値を超える差があつてはならない。 箇条19 異常運転（第1部の規定による。） 故障状態の下での機器の安全性をヒューズによって確保する場合は、適切なものを選ばなければならない。 箇条25 電源接続及び外部可とうコード | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|------|-------------|---|--|----------------------------------|--|-------------------------|
| | | | | 25.8 | 25.8 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈の別表第一に適合したコード以外の電源コードの導体は、規定する値以上の公称断面積をもつものでなければならない。（第1部の規定による。） | |
| 第十七条 | 電磁的妨害に対する耐性 | 電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条19 19.11 19.11.4 箇条29 | 箇条19 異常運転 19.11 回路全体又は回路の一部について、電子部品における任意の2端子間の短絡や集積回路の故障等の単一故障状態を起こした場合であっても、炎、熔融金属又は危険な量の有毒性若しくは可燃性ガスが機器から漏れず、かつ、温度上昇は規定の値を超えてはならない。（第1部の規定による。） 19.11.4 電子的スイッチを持つ機器には、規定するイミュニティ試験を実施しなければならない。（第1部の規定による。） 箇条29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁（第1部の規定による。） 機器は、受ける可能性がある電氣的ストレスに耐えるのに適した空間距離を持つ構造でなければならない。 | |
| 第十八条 | 雑音の強さ | 電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | — | — | J55014-1 等の別規格で規定されている。 |
| 第十九条 | 表示等（一般） | 電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方 | <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 | 箇条7 | 第1部の第十九条に該当する規定によるほか、次による。 箇条7 表示、及び取扱説明及び据付説明 | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------|---|--|--------------------------|---|--|
| | | 法で表示されるものとする。 | | 7.4 附属書AA 7.14 | 7.4 バッテリチャージャが異なる定格直流出力電圧に調節が可能な場合、調節した出力電圧を明確に認識できなければならない。 附属書AA 子供が用いるバッテリチャージャ 7.14 機器に表示する記号の高さは10 mm以上、文字の高さは3 mm以上でなければならない。 | |
| 第二十条 第1項 | 表示（長期使用製品安全表示制度による表示） | 次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨 | <input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 | — | — | |
| 第二十条 第2項 | 表示（長期使用製品安全表示制度による表示） | 二 電気冷房機（産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 | <input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 | — | — | |

技術基準との整合確認書

| | | | | | | |
|-------------|-----------------------|--|--|---|---|--|
| | | (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨 | | | | |
| 第二十条 第3項 | 表示（長期使用製品安全表示制度による表示） | <p>三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p> | <input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 | — | — | |
| 第二十条 第4項 | 表示（長期使用製品安全表示制度による表示） | <p>四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p> | <input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 | — | — | |